

議会運営委員会行政視察報告書

* 報告者

議会運営委員会委員長 市議会議員 前田 孝雄

* 視察研修参加議員名

副委員長：石井美季議員 委員：渋谷敏明議員 新岡知恵議員 松島 緑議員
オブザーバー：長谷文子議長

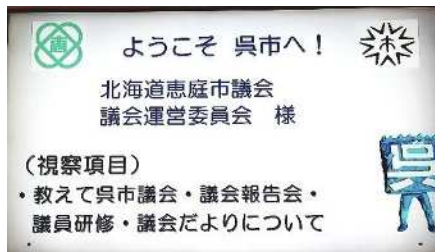
* 視察研修日程

令和 6 年 1 0 月 2 9 日（火）～ 3 1 日（木）

* 視察研修項目

- 丹波市議会：ミライプロジェクト
- 呉市議会：主権者教育、議員研修会、議会だより
- 岡山市議会：主権者教育、政策立案能力の強化
- その他議会運営委員会所掌事項（本会議場の内部配置、議会図書館）

視察研修先・兵庫県丹波市議会
視察研修項目・丹波市議会☆ミライプロジェクトについて
研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等
<丹波市議会の概要> 1 対応頂いた議会事務局及び所管部 「ようこそ丹波市へ」の出迎え看板に迎えて頂き、吉積毅副議長の歓迎のご挨拶に引き続き、議会運営委員会委員長小橋昭彦議員の元、豊嶋議会事務局議事総務課長から「ミライプロジェクト」について、ご丁寧に説明を受けた。 2 議会の構成及び本会議場の状況 (1) 議員定数20名、総務文教、民生産建、予算決算、議会運営の4個委員会、7つの会派で構成されている。 (2) 議員年齢は、最年少46歳、最年長76歳で平均年齢64.6歳 (3) 議場の内部配置は、恵庭市とほぼ同じであった。 3 その他（資料等） (1) 丹波市議会☆ミライプロジェクト関連資料 ① 夢を語ろう 未来へつなごう 「丹波市議会☆ミライプロジェクト」～市議会×大学生×高校生 ② 上記「実施計画」キックオフ会議、第2ステージ・第3ステージ ③ 丹波市議会☆ミライプロジェクト 開催実績 ④ 丹波市議会☆ミライプロジェクト 2024 丹波市議会から高校生への返答文 (2) その他の資料 ① 令和6年度丹波市議会の概要 ② 丹波市議会だより「たんぱりんぐ」 ③ 丹波市勢要覧 ④ その他観光資料

視察研修先・広島県呉市議会	
視察研修項目・おしえて市議会・議会報告会・議員研修・議会だよりについて	
研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等	
<呉市議会の概要> 1 対応頂いた議会事務局議事課 「ようこそ呉市へ」の出迎え看板に迎えて頂き、田中みわ子副議長の歓迎のご挨拶に引き続き、阪井昌行議員の元、山崎幸恵議事課長、平島徹課長補佐及び鳶村課長補佐から、おしえて市議会・議会報告会・議員研修・議会だよりについて、ご丁寧の説明を受けた。 2 呉市議会の構成状況 (1) 議員定数32名、総務、民生、文教企業、産業建設の4個の常任委員会と総合交通対策、総合スポーツの2個の特別委員会、8つの会派で構成されている。 (2) 議員年齢は、40歳未満が3名、70歳以上が8名幅広い世代から構成されている。 3 本会議場は、議員の質問席が設置されている。また、所管部は文化スポーツ部が編成されている。 4 議会図書室は、非常に充実しており、司書が常駐し議員、市民等に対し適切に補佐をされていた。 5 その他（資料等） (1) 教えて！呉市議会、議会報告会について、呉市議会議員研修会 (2) 議会だより：チーム議会から TEAM Gikai へと変更 (2) その他の資料 - 令和6年度呉市議会要覧 - 呉市議会だより「TEAM Gikai」 - 呉観光ガイドブック「呉ブーム」 - その他観光資料	
	 
	 

視察研修先・岡山県岡山市議会

視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について

研修先対応者（名刺等）・研修風景（写真等）・研修資料等

＜岡山市議会の概要＞

1 対応頂いた議会事務局及び所管部

田口裕士議長の歓迎のご挨拶に引き続き、主権者教育として、選挙管理委員会から選挙の出前授業、選挙用機材の貸出し、選挙啓発活動、次にワサオレター、最後に事務局調査課から議員提案による政策立案について、ご丁寧に説明を受けた。

2 岡山市議会の構成状況

議員定数46名、総務、保健福祉・協働、市民・産業、都市・環境、子ども・文京の5つの常任委員会と7つの特別委員会、7つの会派で構成されている。



3 本会議場は、議員の質問席が設置されている。また、傍聴席は、80席用意



4 議会図書室は、書籍がコンパクトに、収納されており利用し易いスペース



5 その他（資料等）

- (1) 市議会ってなあに？選挙の出前授業、選挙用機材の貸出し、啓発活動
- (2) 岡山市議会子ども模擬議会の開催について
- (3) 議員研修会開催の概要
- (4) 議員提案による政策立案について
- (5) その他の資料
 - ① 令和6年度岡山市政の概要
 - ② 岡山観光パンフレット「OKAYAMAまた来る岡山」
 - ③ その他観光資料

視察研修先・兵庫県丹波市議会	
視察研修項目・丹波市議会☆ミライプロジェクトについて	
報告者・議会運営委員会委員長 前田孝雄	
1 全 般 丹波市は令和6年3月末現在、人口60,581人、恵庭市とほぼ同じ規模の市であり、将来像として「人と人、人と自然の創造的交流都市～みんなでつなぐ丹（まごころの里～）」としてまちづくりを進めております。「丹波市議会☆ミライプロジェクト」には、主権者教育、大学生・高校生・市議会議員が意見交換会を行う懇談会が取り組まれ、議会だより「たんばりんぐ」も市民目線の手作り感溢れる素晴らしい広報誌でした。	 ＜丹波市議会事務局職員等＞
2 視察に当たっての教訓事項 (1) 良かった点 ① 丹波市議会☆ミライプロジェクトで年度毎テーマを決め段階的にバージョンアップ ・大学生、高校生との懇談会、きっかけは「主権者教育」としての可能性を調査 ・「若者と考える、みんなで考える丹波市の未来」をメインテーマとして実施 ・広報誌の若者の意見の取り込み、本会議場での提案の発表 ・高校生からの提言を委員会で議論し、議会から文書により返答 ② 過去2回の市議会議員選挙の投票率、68.05%、65.35%本市より10ポイント高い。 ③ 広報誌は、議会職員がデザイン・レイアウトを考え「たんばりんぐ」を作成 (2) 事業を進める上での課題と改善について ① 課題：高校生と模擬議会を進める上で、形式的にならないか、高校生が議員役をした場合、予算決定権の無い議員が責任ある答弁が出来ない。 ② 改善：執行部が主催する形式で、ミライプロジェクトとして実施 未来を担う若者の声を聞く、主権者意識の熟成、政治への関心が図られた。 ③ メインテーマ：『若者と考える、みんなで考える丹波市の未来』を継続して実施	
3 本市に反映すべき事項 (1) 主権者教育の今後の在り方 ① これまで小中学生を対象に傍聴、議場見学を進めて来たが、投票権が18歳に引き下げられたことにより、市内3高等学校と文教大学等との意見交換による懇談会の実施 ② 運転ボランティアの運転者講習の実施 (2) 広報誌の在り方 ① これまで高齢者を対象にしてきた感が有るが、高校生・大学生にいかに見て頂ける広報誌にするかを視点を調査・研究 ② 表紙のインパクト、中身の横書きを主体とした分かりやすい・読みやすい記述要領	

視察研修先・広島県呉市議会	
視察研修項目・おしえて市議会・議会報告会・議員研修・議会だよりについて	
報告者・議会運営委員会委員長 前田孝雄	
1 全 般 呉市は令和6年3月末現在、人口203,549人、広島県の中核都市として、また、恵庭市は陸上自衛隊3個駐屯地が所在する町ですが、呉市は、海上自衛隊呉基地、呉地方総監部が所在し、1,200名の隊員が勤務しております。 主権者教育では、小学生を対象に平成28年から「教えて！呉市議会」を実施、また、呉市議会基本条例に基づき、市民と自由に情報及び意見を交換する議会報告会を平成22年から開催している。	
2 視察に当たっての教訓事項 (1) 良かった点 ① 主権者教育の一環として、市内高校10校を対象に意見交換・議会報告会の実施 ・令和5年2月号に高校との意見交換会を特集として呉議会だよりに掲載 ② 議員研修会を平成20年から年1回基準に講師を招いて実施 ③ 議会だよりを「チーム議会」～「TEAM Gikai」に変更し、若者への関心を深める努力をされている。中核市議長会議会報コンクールで2年連続優秀・準優秀賞を獲得 (2) 意見交換・議会報告会の課題 ① 課題：会場・参加者が固定化され停滞感、委員会所管の関係団体との意見交換が必要 ② 改善方向：市内の会場を縮小し、関係団体や学校での開催を多くし、関係団体・学校からの要望として、意見交換のテーマも決めて貰う方式とする事で活性化が図られた。	
3 本市に反映すべき事項 (1) 主権者教育について ① 投票権が18歳に引き下げられたことにより、市内3高等学校と文教大学との意見交換による懇談会の実施 ② 高校生を対象とした模擬議会、まちづくりへの提案の聴取 (2) 議会報告会、議員研修について ① 市内3高等学校・文教大学との意見交換・懇談の実施 ② 現在ハラスメントに特化した研究会に識能を高める研修会の取り入れ (3) 議会だよりについて ① 若者に見て頂ける広報誌の在り方検討 ・表紙のインパクト、中身の横書きを主体とした分かりやすい・読みやすい記述要領	＜呉市議会事務局職員等＞

視察研修先・岡山県岡山市議会	
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について	
報告者・議会運営委員会委員長 前田孝雄	
1 全 般 岡山市は、平成21年4月に政令指定都市に移行し、令和5年10月1日現在、人口715,740人であり、歴史、伝統、文化の町として知られ、恵まれた自然環境「晴れの国おかやま」、県内、市民に分かりやすい情報発信をされ、政令指定都市20市の内で様々な分野で上位を占め、物価水準の低さ第2位、図書冊数人口1人当たり4.7冊で第1位の町である。 主権者教育の一環として、選挙管理委員会が実施している選挙の出前授業、選挙用機材の貸出し、「WASAO Letter」や明るい選挙啓発ポスターコンクール等活動が際立っていた。また、政策立案能力の強化についても議員研修会を平成24年から年2回基準に実施、議員提案による条例等の制定も数多く見られた。	 
＜岡山市議会事務局職員等＞	
2 視察に当たっての教訓事項 (1) 良かった点 ① 選挙管理委員会が投票率の低下対策として、様々な施策の実施 ・ WASAO Letter（若者の参加する町おかやま）で様々なテーマで発信し、若者の参画意識の啓蒙 ・ 岡山市選挙啓発動画コンクール、最優秀賞5万円、優秀賞3万円相当のギフト券 ② 議員提案条例の特色、市民の身近な課題に対して超党派によるプロジェクトチームを結成、意見交換、先進事例研究、専門的知見の活用、市民からの意見募集 ③ A1サイズ、表面が市政の概要、裏面が主要事業の概要図によるコンパクト化 (2) 投票率低下（直近37.29%）の課題に対する多種多様な改善策 ① 選挙の出前授業（高校・大学で19回）と選挙用機材の貸出し（高校・大学等12件） ② 選挙期間啓発28件：大型モールでの期日前投票所の設置及び普及動画放映・配信 ③ 常時啓発事業11件：選挙管理委員会が積極的に情報発信、様々なSNSでの発信	
3 本市に反映すべき事項 (1) 主権者教育について ① 選挙管理委員会による投票率を上げるための様々な啓発事業 ・ 28項目の選挙啓発及び11項目の啓発事業を精選し、本市に反映 ② 10代、20代に響く選挙啓発事業の推進 (2) 政策立案能力の強化について ① 意見交換及び意見・要望を聴取したら、議会として確実な回答の実施 ② 様々なテーマに基づき、議員間でのワークショップ、意見交換の実施	

視察研修先・兵庫県丹波市議会
視察研修項目・丹波市議会☆ミライプロジェクトについて
報告者・石井美季
丹波といえば豆や栗などの農産物を連想します。ゆったりした気候風土が北海道に共通するところがあるかもしれません。 丹波市の人口は約6万1千人で、恵庭市の規模に近いといえます。 今回の視察のテーマであるミライプロジェクトはそんな丹波市が取り組んでいる新しい形の主権者教育の姿です。 高校生を主体に大学生と一緒にまちの課題について考え、若者ならではの視点でのアイデアを議会で議論し検証したうえで実際のまちづくりに反映します。 人生経験からの知恵を頼りにするだけでなく感覚的で柔軟な発想はこれからのまちづくりに大変重要と思いました。 特徴的だったのは議会だより「たんばりんぐ」でミライプロジェクトの特集はもとよりターゲットを30代以下に設定しているその紙面は、市販している雑誌のように親しみやすい見た目で、かつ伝えるべき点はしっかり押さえているというものでした。紙媒体の広報のニーズの従来のイメージにとらわれない斬新な内容で子どもや若い人も手に取りやすいだろうと想像できました。

視察研修先・広島県呉市議会
視察研修項目・おしえて市議会・議会報告会・議員研修・議会だよりについて
報告者・石井美季
広島県呉市は人口20万人を超える中核工業都市です。 こちらでも議会だよりに大きな特徴がありました。ターゲットはさらに若い20歳前後。小学生対象のおしえて議会や高校生と真剣に話す議会報告会が反映されて好循環が生まれてきているようにも見えました。広報に力が入っているのは前日に訪れた丹波市とも共通している取り組みです。議会だよりの工夫により若い世代の関心を集め、結果、より広い年代の住民に市政への関心を持ってもらうことにつながり活性化することに寄与すると考えました。 議員研修については様々な分野の講師を招き広い知識を得ることによって議員の視野が広がり、資質向上が期待され、また、議会図書室も活性化し、企画立案能力の向上に大変大きな効果があると推察されます。ここでも、柔軟な発想が重要であると感じました。 これからの議員はこうした発想力思考力が求められるということに共感しました。

視察研修先・岡山県岡山市議会
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について
報告者・石井美季
岡山県岡山市は人口70万人を超える県庁所在地であり政令指定都市です。 主権者教育に関しては県をあげて精力的に取り組んでいる印象が強くあります。 岡山市では小学生中学生高校生向けのそれぞれのメニューできめ細やかな事業を行っています。 大きな特徴と感じたのは、家族とか、親子の関係の結びつきに起因する行動に着目している点で、「カルガモ投票」は親子連れで投票所に出向くことを指し、ひとことでぱっとイメージがわくワードチョイスに市民の普段からの習慣が表れているのかと推察されました。 もう一つ特徴的だったのは「わさおレター」で高校生が気になったことを調べたり聞いたりして編集した広報紙を若者向けに市で発行するもので、若者の自主性を育てる事業でもあると感銘を受けました。子どものころから少しずつこうして市政にかかわって生きていることの自覚を持つことができる仕掛けはこれからのまちづくりに大きな意味を持つと考えました。 政策立案能力の強化についてはその延長上にあるようにも思いましたがやはりここでも柔軟な発想がポイントというふうに思いました。 今回訪れた3市はいずれも若く柔軟な発想を大切にし、学生や若い世代の疑問やニーズをうまく引き出し周知法も自由な感覚で若い世代が気軽にアクセスし、共感を得やすくなる工夫が凝らされていると感じました。大いに参考になる学びの多い視察研修でした。

報告書 3

視察先・兵庫県丹波市議会
視察研修項目・丹波市議会☆未来プロジェクトについて
報告者・松島 緑
＊議員個々の考察と見解＊ 平成 28 年より投票権が 18 才に引き下げとなり、本市としても子供たちが社会に興味を持ち積極的に政治を身近に感じ社会参加できる環境作りが重要とされる事から、主権者教育の取り組み『丹波市議会☆未来プロジェクト』について視察する事とした。 丹波市議会では主権者教育を始めたきっかけとして、平成 29 年議員研修会で講師を務めた福知山公立大学杉山准教授より『大学生』『高校生』と『市議会議員』との懇談会の開催を提案された事がきっかけとして、平成 30 年『大学生』『高校生』『市議会議員』での意見交換を行った事で主権者教育を検討。この取り組みを通じて、若者が市政へ関心を持ち、また、若者の意見や考えが反映され、更にまちづくりに繋げることを目的として取り組んでいた。高校は市内 3 校から参加、福知山大学の生徒がファシリテーターとして参加者の支援を行い高校生や議員の意見や思いを引き出す役割を行い、グループワークなど行っていた、平成 30 年度～毎年開催。 令和 5 年度よりバージョンアップを行い ① 高校 2 年生が対象から学年全体へ対象を拡大し、生徒がより多くの参加する機会を設けていた。 1, キックオフミーティング（若者たちが主体となりアイデアを出し合う） 2, インターネットツールを利用して高校生・大学生が発表へ向けて資料を作成 3, 本会議場で発表 高校生からの提言に対して委員会で議論→議会から返答 『丹波市未来プロジェクト』の目的は開かれた議会を目指して、広報公聴の機能の充実について取り組んでいた。若者が議会を身近に感じる事、今後どの様なまちに住みたいのか、若者が調査研究を行い、また、議論を重ね議会へ提案する事で自分たちのまちづくりへの関心、市政を身近に感じる取り組みを行っていた。また議会広報誌は読む年代層は本市同様高い状況であるが、10 年前よりターゲットを 40 代に響く言葉とした、市民の皆さ

んに広報誌に掲載する事で、より市民に身近な情報を提供し幅広い目線での開かれた議会を目指していた。紙面では市民が関心を持ってもらえるような言葉を一言添えている。また、市民からの意見を掲載している。

② 高校生による３校連携でのプロジェクトの実現

『高校生が創る未来への架け橋プロジェクト』では２０２１年に丹波市の３校の高校生がギネス記録に挑戦、コロナ禍での、地域を盛り上げることを目的として２０２１年地域の特産物の栗を生かして『モンブランのケーキをオンラインで一斉に食べた』ことがギネス記録となった。ギネス記録に挑戦するまでの多くの困難や課題に対して高校生のまちを盛り上げたいとの情熱に対して多くの大人が賛同、協力者となり多くの方々がオンラインアプリ zoom で参加者となり、見事ギネス記録に認定された。また、開催にかかる費用をクラウドファンディングで費用集めるなど、高校生の熱い情熱がまち全体を盛り上げ、また、この事により丹波市が大きく報道され、まちの知名度や特産物のアピールに大きく貢献。学生達もまちの魅力を肌で感じ、毎年様々なイベントを企画実施している。

本市としても若者がまちづくりに参加できる取り組みが必要であることを痛感した。若者が持つ新たな発想とエネルギーに耳を傾け、反映される機会を創ること事がまちづくりとしても、必要不可欠である事を改めて学ぶ機会となった。

報告書 3

視察先・広島県呉市議会
視察研修項目・主権者教育・議員研修会・議会だよりについて
報告者・松島 緑
＊議員個々の考察と見解＊ 主権者教育として『教えて市議会』の開催内容について。 平成 28 年度より毎年小学校 1 校 6 年生に、年 1 回 1 校での開催。議会運営委員会のメンバーが議会の仕組み、役割、議会で行われているのか、議員の仕事などについて説明、理解を促していた。また、実際に模擬議会を行い、議長役・議員役・市長役に分かれて議案説明、電子評決システムを体験議会の役割・仕組みを学ぶ機会となっている。 中学校では『呉市立中学校総合文化行事』の一環として呉市立中学校『ふれあい夢議会』を開催し、未来の呉市を担う世代として未来のまちづくりの提案をしていた。内容として議場で市内中学校、義務教育学校生徒の代表 26 人が議員、市職員の役に分かれ実際の本会議さながらの事業提案『空き家活用フリースペースについて』『特産物を使って町おこしについて』など、質疑、採決を行う。ふれあい夢議会で討論し、その後地域の活性化へ向けて具体的な取り組み内容については『ふるさと子供夢事業』として実施されていた。 また、呉市では平成 22 年から議会の仕組みについて市民団体への議会報告会を開催、当初は 2 会場からスタート、始めた頃は批判的な意見も多く円滑な報告会ではなかった。現在はテーマを決め協議や意見交換会を行っている、平成 23 年度開催から現在では市内 16 会場。平成 28 年度から高校へ出向き議会報告も行っている。世代別に段階を踏んで子供たちが興味を持てるような工夫がなされ、主権者教育として大きな成果が得られているのではないかと感じた。 議会だよりについて 令和 3 年に『もっと市民に見てもらえる議会だより』を広報委員会で検討後、WRB 研修会を受けて、講師から助言を受けた『表紙は脳裏に焼き付く写真、手に取り開いてもらうことが必要。若者をターゲットにするならローマ字を使用、すべての人に配慮したユニバーサルデザインフォント活用する事、議会が伝えたいことではなく相手が知りたい

情報をわかりやすく、伝えたいイコール知りたいではない、伝えるではなく伝わる広報誌』を目指していた。令和５年度に大幅にリニューアル。リニューアル後、毎回テーマを決め特集組み、発行の１５週間前に広報委員２名、事務局１名で取材をしている、紙面では議会トピックスの中にタイムリーな話題、市民が関心ある議題を掲載。令和５年『中核市議会議長会広報コンクール』で４年ぶり２回目の優勝。紙面を見て感じたことは議会報の固定概念がなく、横文字と写真も多く市民参加型のフラットに市政情報が入ってくる構成となっている。

議員研修について

呉市では議会研修費予算４５万円、平成２０年より研修会毎年１回開催。テーマは議会事務局都議会で検討。令和４年度では２回開催『職場のハラスメント対策～快適な議会環境を保つために～』

『ECO ROCKT から生まれた技術を地上の脱炭素化社会へ～宇宙と地球の相互連携による持続可能な社会の実現に向けて～』令和６年度では『地方議会の課題』研修へ参加後アンケート調査を行いより議員の意見を反映した研修会となっている。

呉市の主権者教育については小学校から高校まで議会との距離が身近に感じる機会を設けることで子供たちの政治に関心を持つきっかけ作りに努力されていた。

議会だよりの取り組みとしては議員研修を受け、市民が知りたい情報を伝えることが大事であることやユニバーサルデザインフォントを活用、だれもが読みやすい文字、市民参加型の紙面となっていた。本市としても、今後若い世代も読んでもらえる内容に改善していきたい。議員研修会についても議員のスキルアップとして研修会の開催を行うことは重要であると感じた。

最後に議会図書室を見学させていただき大変に驚いたのが図書館司書を委託職員として雇用、議員や利用者へのレファレンスサービスの向上を図っていた。また、市政資料室も併設している。司書を配置する事で議員の議会活動へのサポートが手厚く感じ議会図書室の重要性を改めて感じた。

報告書 3

視察先・岡山県岡山市議会
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について
報告者・松島 緑
* 議員個々の考察と見解 * 岡山市の主権者教育の取り組みについて 選挙管理委員会が平成 28 年から小学校・中学校・高校に出向き選挙出前授業を行い、現在では大学生・専門学校生にも開催。小学校出前授業では、先生が選挙について説明。選管講義は学生が講師を行い、模擬投票についても学生がサポート。中学校では租税教室・選挙出前授業開催。税理士が講師となり授業を行う。選管職員が模擬投票や選挙全般について説明を行っていた。また若者が中心となり、岡山市明るい選挙推進協議会の総会及び研修会を開催。研修会の講師に高校生・大学生起用。常時啓発事業として 1、子供の選挙啓発ポスターの公募を行い、児童生徒・生徒の家族に選挙の再認識を勤めていた。2、親子連れでの投票カルガモ投票の推奨。3 岡山選挙啓発動画コンクール開催。最優秀賞 Amazon ギフト券 5 万円相当、優勝 3 万円相当、動画作成時の留意事項細かく周知。4、WASAO レター（若者の W）（参画する S）（岡山 O）WASAO レターは岡山市内の高校生・大学生が自分たちで取材テーマを決め、岡山市役所担当部署取材し作成する広報誌平成 30 年岡山推進協同推進事業として選挙管理委員会と NPO 法人との共同で始めていた。政策立案能力の強化については議員研修会を平成 24 年から開催、年に 1、2 回の開催。令和 6 年度では 4 回開催『我が国の経済・物価情勢と岡山の特徴』『在宅医療・介護人生会議の進め』等、主権者教育は選挙管理委員会の取り組み事業であったが子供から若者まで主権者としてまた子供たち家族や周りの大人も興味・関心が持てる取り組みを様々行っていた。 議員提案による政策立案として、市民の身近な課題に対して超党派によるプロジェクトチーム結成し、行政機関・関係団体と意見交換、現地調査・市民意見募集など等、調査研究し令和 3 年 4 月『自転車の安全で適正な利用を促進するための条例制定』①自転車損害賠償保険加入義務化②子供のヘルメットの着用義務化③交通ルール遵守等、議会全体で政策立案の強化を行っていた。主権者教育、議員の政策立案の強化等、本市の現状を踏まえ取り組んで行くことは重要であると強く感じた。

視察研修先・兵庫県丹波市議会
視察研修項目・丹波市議会☆ミライプロジェクトについて
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
【視察の目的】 全国的に選挙における投票率が下がっており、どの市町村も主権者教育に力を入れている。恵庭市議会においても、どのような取組をすれば若者に議会に関心を持ってもらえるか模索中である。丹波市議会の「ミライプロジェクト」について学び、今後の主権者教育への取組の参考としたい。 【ミライプロジェクトの概要】 ミライプロジェクトは、議員研修で講師を務めた大学准教授から「大学生」「高校生」「市議会議員」の懇談会開催の提案を受け、主権者教育の一環として 2018 年からの実施となった。今年で 7 年目となる事業。テーマは「若者と考える、みんなで考える丹波市の未来」とし、2023 年からは過年度の取組を反省しバージョンアップ。回を重ねることでの形骸化やマンネリ化を脱却し、より効果的な取組として継続されている。 【考察と見解】 丹波市は人口約 6 万人、市議会議員 20 名と、恵庭市とほぼ同規模の自治体である。恵庭市議会では、2019 年に中学生を対象とした「子ども未来議会」を実施したこともあり、その時の経験も踏まえ、丹波市の取組は非常に興味深く、学ぶ点が多かった。 まずは、1 度限りのイベント的な取組ではなく、継続されていること。さらには過年度の反省を踏まえ、バージョンアップをしていることも刮目に値する。どんな新しい取組もはじめは手探りだと思うが、経験を重ね改善を重ねることで、取組がブラッシュアップされていくことが重要だと痛感した。 また、取組が「議会を身近に感じてもらう」ととどまらず、若者の声を議会として受け止め、それを議会活動のなかでしっかり返答していく仕組みを構築していること。高校生から出た意見は、担当委員会で受け止め、その内容によって市長に要望し回答を求めるもの、意見として市長に伝達するもの、委員会として調査を進めるもの、全議員で共有するものなどに分類したうえで取りまとめ、高校生に返答している。具体的なタイムスケジュールは、7 月に高校生と大学生による最初のミーティング、その後インターネットツールを使って発表資料の作成、10 月本会議場で発表、12 月に議会から高校生へ返答、と非常にスピーディーな対応である。市民からの意見要望に対しては、聞き取るだけではなく、議会として返答することが重要だ。その積み重ねが、足腰の強い主権者教育につながるのだと思う。 その他、近隣大学との連携による取組も参考になった。恵庭市にも高等教育機関があるので、大学との連携によって取組の手法の幅は広がり、その効果は高まると感じた。 『若者と考える、みんなで考える丹波市の未来』というこの取組のテーマどおり、未来への可能性を感じる取組であり、恵庭市議会でもぜひ参考にしたい意義ある視察であった。

視察研修先・広島県呉市議会
視察研修項目・おしえて市議会・議会報告会・議員研修・議会だよりについて
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
【おしえて市議会の概要】 2016 年から実施、今年で 7 度目（2021、2022 年はコロナで中止）。近隣 7 小学校のうち年 1 校、6 年生を対象としている。議会の仕組みを説明したあと、模擬議会を実施。その後、参加した児童による議員への質問の時間となる。 【議会報告会の概要】 議会基本条例（2010 年制定）の中で実施を規定されており、2010 年から実施。その後、参加者の固定化が見られたことから、議会でテーマを決めて、関連団体との意見交換や学校での開催を増やしてきた。2023 年からは、自治体・関連団体からの申し込み制に変更し、それぞれが抱える課題テーマでの開催。学校については、今年からグループワークに手法を変更。 【議会研修の概要】 2008 年から年 1 度実施。テーマは社会情勢と議員アンケートから事務局が選定。予算は年間 45 万円。 【議会だよりの概要】 議会だより『チーム議会くれ』は 2017 年創刊。広報委員会が編集・発行を担当。2022 年に「伝わる広報誌」を目指し、専門家の助言を受けリニューアル。 【考察と見解】 議会だよりの読みやすさ、伝え方の工夫は非常に参考となった。特に、議会で取り上げられ議論されている問題を、「特集」という形で巻頭で扱い、市民の関心を引き付けている点が重要だと感じた。現在の恵庭市議会だよりでは、議会で議論された項目と審議結果の提示にとどまっているので、それらが市民生活にどのようにつながっているのかが伝わりづらいのではないと思う。議会で議論されたことが、その後どのように自分たちの生活の中に反映されたのかを、文字だけではなく写真や図を使って伝えることで、議会が身近に感じてもらえるのではないだろうか。 しかし、現在の恵庭市議会だよりの構成では、「特集」を組むスペースはない。紙面に制限があり、掲載できる内容を精査する必要も出てくるが、議会が伝えたいことではなく、相手が知りたい情報を伝えるという観点に立てば、例えば一般質問のスペースを削るなど大幅なリニューアルが必要なのかもしれない。 また、特集のテーマ決定、取材、原稿作成など、議員が主体的に編集していることも参考にしなければいけない。前回議会だよりについて視察に行った際にも痛感したところだが、現在まで大きな改善に至っていない。今回の視察を意義あるものにするためには、議員自らが主体的に作る議会だよりになければいけないと考える。

視察研修先・岡山県岡山市議会
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について
報告者・新岡 知恵（市民と歩む会）
【視察の目的】 主権者教育については、子ども模擬議会の実施や子ども向け市議会ガイドの作成を実施している。それらがどのような効果を上げているのか参考としたい。政策立案能力の強化については、継続的な議員研修を行っているが、それが議会力の向上に成果として現れているのか学び、今後の取組に活かしていきたい。 【主権者教育の概要】 子ども模擬議会は、子どもたちに市議会の模擬体験をしてもらうことにより、身近に感じてもらい、議会や市政に対する興味関心を高めることを目的として実施。市内の小学 5.6 年生、定員 30 名で募集。議会事務局で作成したシナリオに沿って、子どもたちが議会を体験。 子ども向け市議会だよりは、2024 年デジタル版として作成し、市内小学校で活用できるよう教育委員会をとおして配信。市議会 HP にも掲載。 【政策立案能力の強化の概要】 議員研修は基本年 1 回の開催だが、予算内であれば複数回の開催年度もある。（予算は年 43 万円）研修を通して、議員の政策立案能力を強化することが目的。研修の効果としては、議員提案条例の制定につながっている。 【考察と見解】 主権者教育として学校と連携するケースでは、学校側の負担が課題となるが、子ども模擬議会は、学校との調整することなく、直接子どもへ参加の募集をすることでその課題は回避している点は参考となった。また、保護者同伴とすることで、子どもだけでなく、総じて投票率が低い子育て世代への政治参加への関心を高める効果も伺えた。しかし、議員の関わりが薄く事務局の負担が大きいなど、当市で実施する際には工夫が必要であると感じた。 政策立案能力の強化については、研修がその後の議員活動において効果的に反映されることが重要だが、岡山市の場合は、議員提案条例の取組の中で現れている事がわかった。岡山市では、個別課題についてプロジェクトチームを作って議論するケースと、常任委員会の中で議論するケースがあるとのこと。いずれにしても、研修をとおして得た見識と問題意識を、議会全体で受け止めたうえで、条例制定に向けて取り組む姿勢には大いに学ぶものがあると感じた。恵庭市でも議員提案条例はあり、近年では「ハラスメント根絶条例」が制定され現在もその見直しが行われているが、議員が自ら条例を作ることは非常にハードルが高いと痛感している。議員としてさらなる自己研鑽はもちろん、事務局による法制サポートが不可欠であると感じる。 現状、恵庭市では議員研修は、ハラスメントに関するものにとどまっているが、もっと幅広い研修の機会の必要性も感じた視察であった。

視察研修先・兵庫県 丹波市
視察研修項目・ミライプロジェクトについて
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
【視察研修内容】 上記研修テーマに沿って、丹波市小橋議会運営委員会委員長より説明を受ける。 丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、急斜面をもった山々によって形作られた中山間地域で、丹波地域の山々を包む朝霧、夕霧は「丹波霧」と呼ばれ、豊かな自然環境に恵まれたまちです。また、「丹波栗」「丹波黒大豆」「丹波大納言小豆」が全国的に有名な特産品となっています。平成16年11月に6つの町が合併し今年で20周年を迎え、人口約61,000人、26,000世帯が居住しています。 丹波市議会では、「開かれた議会」を目指す中、将来のまちづくりを考える上で、まちの未来を担う若者の意見を聴くことが重要であり、若者の主権者意欲の醸成や政治への関心を高めるため、議員と若者が意見交換を行い若者の意見や考えが反映される「丹波市づくり」に繋がることを目的として、地元の福知山公立大学の杉岡淳教授の指導により「大学生」と「高校生」と「市議会議員」の懇談会に取り組み、平成30年度に「丹波市議会・ミライプロジェクト」としてスタートしました。 【考察】 当初、ミライプロジェクトは大学生がファシリテーターとして参加し、議会の課題をテーマに開催していたが、議会からの一方的なテーマの提案ではなく、内容を充実させることが必要と考え、令和5年度からバージョンアップを図り抜本的改革を目指すこととして、生徒や学生の探求テーマを生徒自らが調査・研究・発表を行う形式へ変更している。 この変更により高校生が自らテーマを決め、企業を回って企画を説明し資金集めを行いクラウドファンディングまでするなど、市の予算なしに取り組み、その取り組み内容を議会で発表して、議会はその内容を検討したのち、生徒へ返答する内容となっている。 生徒の自主性を生かし政治に関心を持ってもらう主権者教育の取り組みとして画期的事業であると感心させられた。恵庭市においてもこの取組を参考とさせていただき、何ができるか考えていければと思う。

視察研修先・広島県 呉市
視察研修項目・主権者教育・議員研修会・議会だよりについて
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
【視察研修内容】 上記研修テーマに沿って、呉市議会事務局蔦村課長補佐、平島課長補佐より説明を受ける。 呉市は、瀬戸内海のほぼ中央部に位置し、瀬戸内海に面する陸地部と安芸灘諸島などの島しょ部で構成される温暖な気候に恵まれた海と山に囲まれた自然環境の良い都市であり、戦艦「大和」を建造した軍港を有し、日本一の海軍工廠のまちとして栄えてきました。明治 35 年市制施行となり、今年で 122 年を迎える人口約 210,000 人、105,000 世帯が暮らす中核工業都市であります。 主権者教育について、呉市では小学 6 年生を対象として平成 28 年度より「教えて！呉市議会」と題して議会のしくみや模擬議会を開催して、より深く学習してもらう取り組みを進めている。また、議員及び市民が自由に情報及び意見を交換する取組として「議会報告会」を平成 22 年度より開催し、平成 28 年度より高校生においても範囲を拡大している。 議会研修会は、全議員を対象とした外部講師による研修会を毎年開催し、様々なテーマを設けて議員の資質向上に向け取り組んでいる。 議会だよりについて、呉市の将来を担う若い世代にも「議会だより」を読んでもらうため令和 3 年度に広報委員会で魅力向上に向け検討を行い、令和 4 年度に「議会だより」の全面リニューアルを実施。リニューアルする上で若者をターゲットにするなら「ローマ字を使うこと」、「議会が伝えたいことではなく、相手が知りたい情報をわかりやすく」、「伝えるのではなく、伝わる広報誌を目指す」ことなど講師からの助言を参考に取り組んだ結果、令和 4 年度に中核市議長会議会報コンクールで最優秀賞を受賞している。 【考察】 議会報告会では、当初市への要望事案が多く出され、要望合戦となっていた。（要望に対する回答については次年度開催時に行っていた）また、参加者も固定化しているなど課題が多かったことから、令和 5 年度より参加する自治会や関係団体よりテーマを事前に出してもらう申し込み制に変更して報告会を開催。 事前に質問等を受けることで、開催時に事前に出してもらった質問や課題などについて回答していく内容となっており、スムーズで充実した報告会になったとのこと。（テーマの事例：空き家問題、有害鳥獣問題、地域交通問題など） 一つの事業を継続していく上で、どうしても形骸化の課題が懸念されるが、良い形式での変更となり、いろいろ工夫しながら取り組んでいることに感心させられた。 また、議会だよりについて、リニューアル前と後を比較したが、明らかに見やすくなっていた。「議会が伝えたいことではなく、相手が知りたい情報をわかりやすく」「伝

えるのではなく、伝わる広報誌を目指す」この講師の助言が心に残っている。

多くの市民に、まず見てもらうことに重点を置くこととした取組に大いに感心させられた。今後の参考にしていきたいと思いました。

視察研修先・岡山県 岡山市
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について
報告者・民主・春風の会 澁谷敏明
【視察研修内容】 上記研修テーマに沿って、岡山市選挙管理委員会長谷川氏、議会事務局松林副主査より説明を受ける。 岡山市は、瀬戸内海に注ぐ岡山平野に位置し、温暖な気候に恵まれた自然環境豊かな都市で、戦国時代に築城された「岡山城」や日本三大名園の一つとして知られる「後樂園」を有し、「もも太郎伝説」など歴史や文化資産が数多く存在しており、平成 21 年度に政令指定都市に指定され、人口約 716,000 人が居住しています。 岡山市の主権者教育の取組については、選挙管理委員会の職員による「選挙出前授業」や「選挙用機材の貸し出し」を小学校、中学校、高校、大学、特別支援学校に行き、選挙や政治に関心を持ってもらう取り組みを進めている。また、未来を担う子どもたちに議会を身近に感じてもらい議会や市政に関心を持ってもらうことを目的に「子ども模擬議会」を開催しているほか、「市議会ってなあに？」と題したガイドブックを作成している。 政策立案の取り組みとしては、平成 24 年度より外部講師による議員研修会を開催し議員の資質向上に取り組んでおり、これまで議員発議の政策条例は平成 22 年度より 9 件制定されている。 【考察】 岡山市の積極的な主権者教育の取組に驚かされた。選挙出前授業や選挙用機材貸出は、もちろんであるが選挙啓発事業として 28 項目に及ぶ取り組みのほか、常時啓発事業として 11 項目を実施している。中でも平成 30 年度より取り組んだワサオレター（若者・参画するまち・岡山市の略）の作成であるが、高校生や大学生が市政に関心のあるテーマを自ら決め、市の担当部局へ直接取材を行う。その取材内容を広報誌としてまとめたもので、取材を行った生徒以外にも「政治」を考えるきっかけとするため完成品を市内高校へ配布し、市ホームページにも掲載している事業に感心させられた。 さらに、小、中、高生を対象とした選挙啓発ポスターコンクールや高校生や大学生を対象とした選挙啓発動画コンクールなどいろいろ工夫しながら、どうしたら若者に選挙や政治に関心をもってもらえるか取り組んでおり、今後、恵庭市で何ができるか参考とさせていただきたい。

視察研修先・兵庫県丹波市議会
視察研修項目・丹波市議会☆ミライプロジェクトについて
報告者・長谷 文子
1.プロジェクト誕生のきっかけ 開かれた議会を目指す中、将来のまちづくりを考える上で未来を担う若者の声を聴くことは非常に重要であることから、総務省の主権者教育アドバイザーである福知山大学准教授の杉山氏に関わっていただきながら協議を開始。 主権者教育について、高校生による模擬議会の先進地視察の中で、若者との交流だけならこれで良いが、課題が見えてきた→若者が議員になり質問をし、議員が理事者席に座り答弁しても、それだけで終わってしまう そこで、市の執行部が主催して実施すれば良いのではないかとの結論に至った。 これが、「丹波市議会☆ミライプロジェクト」の誕生のきっかけである。 2.これまでの流れ・概要 主権者意欲の醸成・政治への関心を高めるために、どうすれば若者と議会の距離が縮まるのかを課題として、丹波市の未来を若者と議員が同じ立場で考えていこうとの意味を込め、テーマを「若者と考える、みんなで考える丹波市の未来」とした。 H30 年度 第1回目ミライプロジェクト 福知山大学生がファシリテーター役になり、市内に3校ある高校の1校の生徒と議員が意見交換会を開催し、テーマなどを決める。 この時の反省点として、 ①市内3校＋特別支援学校がある。1校が3年に1回の経験では、体験できない学年が出る。 ②3高校連携でプロジェクトの実現をと、高校生側からの提案があった。 ③議員に親しみは感じられたが、当初掲げた趣旨には繋がらない。 R2 年度はコロナにより中止、R3.R4 はオンラインによる開催 R5 年度 これまでの反省点や課題を踏まえ、1回目のの懇談会を「キックオフ」とし、高校生が質問のアイデアを出し合い大学生を交えてオンラインなどで発表しあい、まとまったものを3か月後本会議場で発表する。 この場合、高校生が執行部席に着座し、市長の市政執行方針のようにみんなで協議したことを発表、議員は自席で質問、進行は議長が担う。 R6 年度 高校ごとにグループを作り、特別支援学校も加わり、学校ごとにテーマを決め、実施。 出された意見の取り扱いについては、委員会に振り分け協議し・市長に伝達・市長から回答・委員会での継続協議・議員間で共有の4パターンに分ける、 3.所感 これからの主権者教育は、高校生や大学生を巻き込むことが大切。恵庭市議会は、これまで小中学校の児童生徒に対してのみに行なってきた。お蔭さまで市内には大学があるという好環境のもと、今後、高校生や大学生に対して、今回の視察で学んだことを十二分に生かしていければと思いました。

視察研修先・広島県呉市議会
視察研修項目・議会報告会・議員研修・議会だよりについて
報告者・長谷 文子
1.概要 ①議会報告会 議会基本条例第 10 条に則り、R22 年度から開催。議員と事務局メンバーで担う。 コロナ明けの R4 年度は、10 ヶ所の高校において実施、テーマを常任委員会で設定し 1,054 名の参加、内容は議会の仕組みや担当委員会所管事項。 R5 年度は、参加について自治会や企業から申し込みを受け 5 団体と、高校 9 校が実施。一般 112 名、高校生 1,089 名の参加。この年から改選を機に設置した政策委員会が担当。テーマについては参加者から提案してもらう。 R6 年度には、主権者教育の観点から高校で活発にしたいとの思いで、実施方法を少人数制も選択肢に入れ、結果半数の 5 校が少人数制を希望。 報告会以外に、小学生を対象にした「教えて市議会」事業を、近隣 7 校に教育委員会を通して実施校を募る。内容は、議会の仕組みを説明した後、模擬議会を開催。 ②議会研修会 H20 年度から開始。講師料に充てる予算措置あり。研修したことは、議員活動に生かす。 ③議会だより（呉市は中核市議会議長会で最優秀賞を受賞） 自治会加入世帯に配布、用紙やインクを工夫し経費削減に務める。 編集者は広報委員会委員 6 名と議会事務職員。 経費は委託料 918 万円＋先進地視察費用約 65 万円。 年 4 回発行のそれぞれのテーマについては、各議会において議決後に実施した事業についてや施設整備状況についてなどとしている。 2.所感 議会報告会は、市民に開かれた議会という意味では非常に有効な手段であると思います。私の所属会派でも毎年実施しておりますが、来場者の固定化や人が集まらないなど課題が多く、このことは、呉市でも同様に毎年工夫をしながら開催しています。 議会たよりは、まず表紙を見て手に取ってもらえること、内容はわかりやすく市民の関心のあることにスペースを取るなど、参考になることの多い視察でした。

視察研修先・岡山県岡山市議会
視察研修項目・主権者教育について・政策立案能力の強化について
報告者・長谷 文子
1.主権者教育 ①選挙管理委員会が主体となって実施しているもの (教育委員会を通して校長会に利用依頼をしている) ○出前授業 選挙に関するスライドなどで説明したり講師による講演など、年齢や学年に応じ対応。 講師は主権者教育アドバイザーや岡山大学院生などに依頼。 ○選挙用器材の貸し出し 本物の投票箱や投票台などを貸し出し、模擬投票を体験してもらう。 R5 年度の実績・・・出前授業 37 回、選挙用器材の貸し出し 27 件 課題・・・新規開拓。進学校はコマが取れない、担当教職員により関心に関きがある。 ○選挙啓発 常時啓発事項は 11 項目、ワサオレターや親子連れ投票の周知、学校に選挙用ポスター作製の応募依頼など。 選挙が近くなってからの啓発は 28 項目。効果として、SC での臨時期日前投票所の設置に効果があったようだ。 ②議会が主体となって実施しているもの 子ども模擬議会 ・市内全ての小学校に対し参加校を募集 ・配役は当日くじ引きにて決まる ・子供用アレンジしたシナリオに沿って議会運営を体験してもらう 2.政策立案の強化 超党派によるプロジェクトチームを結成、意見交換、現地調査・研究、専門的知見の活用、市民からの意見募集など活用し、政策立案に至る。 3.所感 この度 3 カ所の自治体で、主に主権者教育についての視察を受け入れていただきました。昨今は選挙投票率の低さや、若者の政治に対する関心の低さが問題視されていて、全国市議会議長会においても各自治体に対し、主権者教育への取り組みの推進を提唱しております。 岡山市では、小・中・高校生に対し模擬投票の実施事業や、若者が興味を示すような啓発活動の内容説明を受けました。何かを実施したからすぐに効果が出ることは望めないと思いますが、恵庭市においてそのまますぐにでも取り組めるものや、本市の特色を生かしアレンジが必要なものなどがあることから、智慧を出しながらぜひ取り入れて行くべきと思いました。